

宇都宮の未来が変わる

2023年8月26日に宇都宮に新しく路面電車が開業し、1か月ほど過ぎました。皆さんはもう乗られましたか？

この路面電車、日本では1948年以来75年ぶりの新路線となります。

名前は「宇都宮ライトレール」こと「宇都宮LRT」です。

「LRT」は「Light Rail Transit」の略称で軽量軌道交通の意味となり、LRTの定義は国土交通省の説明では「低床式車両(LRV)の活用や起動・電停の改良による乗降の容易性 定時性 速達性 快適性等の面で優れた特徴を有する軌道系交通システム」とあります。

愛称は「LIGHT LINE」。流線型の先進的なフォルムに黄色と黒のカラーリングの3両編成の低床車両です。

宇都宮は雷の多い町で、昔から「雷都(らいと)」と呼ばれていました。

そう！「LIGHT LINE」は「雷都(らいと)・ライン」なんです。

また、黄色のカラーリングも雷をイメージしているそうです。

形式名「HU300型」は HAGA(芳賀)と UTSUNOMIYA(宇都宮)を結ぶ 3両編成の意味だそうで、定員160名、バリアフリー設計されており、環境負荷軽減に配慮された現代の状況をよく考えた車両となっています。

この路線には3か所の急勾配区間があります。その勾配は60%(パーミル)もあり、「芳賀町工業団地管理センター前」「かしの森公園」「清陵高校前」では力強く登っていくので是非、乗車して実感してみてください。

といっても、車両は67%(パーミル)もの登坂能力があるので案外スムーズかもしれません。

また、時速は70キロまで出せますが、法律では道路を走る併用軌道区間では40キロと定められています。将来は特認を受け時速50キロ、鬼怒川を渡る専用軌道区間では時速70キロの速度での運行も想定しているそうです。

LRTはJR宇都宮駅東口を出て、コンコースを右に曲がり駅前広場に設置さ

れた宇都宮駅東口停留場から芳賀・高根沢工業団地停留場までを結ぶ全長総距離 14.6 キロで停留場の数は 19 か所設置されています。

停留場の間隔は最短区間で東宿郷と駅東公園前の 350m、最長区間は平石中央小学校前と飛山城跡の約 1.8 キロです。

この鬼怒川を跨ぐ区間に専用軌道があります。

宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地までを約 48 分、通勤時間帯のピーク時は 8 分間隔、オフピーク時は 12 分間隔で運行されています。

ですが、これは市民が慣れるまでの開業特別ダイヤであり、来年以降は同区間を各駅停車で 44 分、快速電車で 37 分での運行を見込んでいます。

快速電車があるのも路面電車としては日本初となっています

これらによって、ピーク時は 6 分間隔、オフピーク時は 10 分間隔となり、更に利便性が高くなると期待しています。

ちなみに当社は宇都宮駅東口を出て約 30 分のグリーンスタジアム前駅で降車し、徒歩で 10 分ほどの場所にあります。

さて、ここまで紹介した新時代の路面電車・LRT、時代に合った新路線だと思いますが、開業前には色々と話題にもなりました。

昨年 11 月 17 日から始まった試運転 3 日目の 19 日に脱線事故を起こしました。

実はこの脱線事故が起きた夜は片方のレールが何らかの事情で使用できない緊急事態を想定し、本来は通らないルートで車両を停留場に戻すテストとして実施していました。また、前日の 18 日には時速 5 キロ以下で同様のテストをしていましたが、事故当日は速度を 3 倍近くの時速 13 キロに上げてカーブを曲がろうとしたところ脱線したということです。

想定外の状況での安全性の確認という意味では、開業前の脱線事故は、リスク管理になったのかもしれない。

これからどんどん市民権を得て宇都宮の町に溶け込んでいくであろう LRT。今後の宇都宮の発展が楽しみです。